

2020(令和2)年度 事業報告

(2020(令和2)年4月～2021(令和3)年3月)

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2008(平成20)年12月25日

2. 定款に定める目的

本法人は難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL(生活の質)」の向上や心のケアに寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施
- (2) 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及
- (3) 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究
- (4) 自然体験施設の貸与
- (5) 農産物及び加工品等の販売
- (6) 生活雑貨用品の販売
- (7) ロイヤリティー事業
- (8) 前各号に附帯又は関連する一切の事業



「見晴らしの丘からみた専用施設群」

4. 主たる事務所・支部の状況

「主たる事務所」北海道滝川市江部乙町4264-1

「従たる事務所」なし

5. 役員に関する事項

(2021(令和3)年3月31日時点)

| 役職 | 氏名 | 常勤・非常勤 | 所属(職業) |
|-----|-------|--------|---------------------------------|
| 評議員 | 池野 隆光 | 非常勤 | 一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 会長 |
| | 小林 勝子 | 非常勤 | 元 滝川市立病院看護部長 看護師 |
| | 小林 信秋 | 非常勤 | 認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク 顧問 |
| | 鈴木 忠男 | 非常勤 | 一般社団法人滝川市医師会 顧問 医師 |
| | 鈴木 洋之 | 非常勤 | PwCジャパン合同会社 顧問 公認会計士 |
| | 田村 弘 | 非常勤 | 國學院大學北海道短期大学部 前 学長 |

| | | | |
|--------|-----------------|-----|-----------------------------------|
| 評議員 | 前田 康吉 | 非常勤 | 滝川市長 |
| | 丸山 健 | 非常勤 | 丸山健法律事務所 弁護士 |
| | 明円 直志 | 非常勤 | 滝川商工会議所 会頭 |
| 代表理事 | 細谷 亮太 | 非常勤 | 聖路加国際病院 顧問 小児科医 |
| 業務執行理事 | 佐々木 健一郎 | 常勤 | 公益財団法人 そらふちキッズキャンプ 事務局長 |
| 理事 | 赤松 利恵 | 非常勤 | お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 教授 |
| | 木村 節子 | 非常勤 | 東海大学医療技術短期大学 小児看護学 講師 |
| | 木幡 美子 (岡 美子) | 非常勤 | 株式会社フジテレビジョン CSR 推進部 部長 |
| | 齊藤 ひとみ | 非常勤 | 滝川市立病院看護部長 看護師 |
| | 笹川 祐子 | 非常勤 | 道産子社長会 会長 東京滝川会 副会長 |
| | 富山 睦浩 | 非常勤 | 一般社団法人日本チェーンドラッグ ストア協会 社会貢献委員長 |
| | 文屋 学 | 非常勤 | 文屋内科消化器科医院 院長 医師 |
| | 松橋 浩伸 | 非常勤 | 滝川市立病院 院長 医師 |
| | 宮本 和俊 | 非常勤 | 旭川医科大学医学部 前 教授 小児外科医 |
| | 山内 康裕 | 非常勤 | 一般社団法人滝川国際交流協会 理事・滝川市役所 |
| 監事 | 松浦 聖一 | 非常勤 | 北門信用金庫 常務理事 |
| | 宮崎 英彰 | 非常勤 | A・I 税理士法人 税理士 |

6. 職員に関する事項

| | 2020(令和2)年 4月 | 2021(令和3)年 3月 | 2021(令和3)年 4月 |
|--------|------------------|------------------|------------------|
| 正規職員数 | 9名 | 6名 | 7名 |
| 非正規職員数 | 10名 | 8名 | 4名 |
| 合計 | 19名 | 14名 | 11名 |

II. 事業の状況

1. 事業の実施状況

「コロナ禍の中で事業を実施する基本方針」

医療(小児)の補完的なサービスを提供する当財団としては、事業の実施にあたって、
新型コロナウイルス感染拡大防止対策を第一に考え、柔軟に事業を変更し実施した。

(1) 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施(キャンプ事業)

2020(令和2)年度は、1キャンプごと、同居する1家族に限定した、キャンプ・スタイルに変更し、夏13回、冬2回の計15回実施した。なお、キャンプ参加者は、合計で15家族58名であった。(年度開始前の計画では、夏冬計9回実施、参加者は270名を予定していた。)

実施したキャンプ等の活動詳細は以下。

①「日帰り:デイキャンプ」14回、14家族54名参加(北海道在住)

緊急事態宣言解除後の6月から10月までのあいだ、キャンプ場近隣の滝川市こども発達支援センター、旭川子ども総合療育センターの利用者を中心に、1家族限定の日帰りデイキャンプを週末12回開催し、12家族47名の子どもたちや家族に、馬アクティビティや森のたんけん、芝生あそびなどを楽しんでもらった。

また、1月下旬にも、1日1家族限定のデイキャンプを週末2回、雪の中で開催し、北海道内在住の2家族7名を招待した。



「乗馬後の馬のふれあい」



「家族一緒に馬車体験」



「レイズドベッド(立体畑)でのじゃがいも収穫体験」



「雪が積もった馬場での乗馬体験」

②「宿泊:レスパイトキャンプ」1回、1家族4名参加(成田赤十字病院、茨城県在住)

11月上旬、秋に、宿泊を伴うキャンプを1回開催。小児がんとたたかう子どもと家族(茨城県在住1家族4名)を、主治医同行のもと、2泊3日で招待した。家族一緒に乗馬や森たんけん、アーチェリー、焚き火でおやつ作りなど、北海道の自然を満喫してもらった。



「乗馬後の馬のふれあい」



「家族一緒に馬と記念撮影」



「森たんけん(ツリーハウス見学)」



「家族一緒に焚き火おやつ」

③「闘病中の子どもたちへ、ちょっとした“楽しみ”の提供」

全国各地から、多くの難病の子どもや家族を招待して実施するキャンプが制限されるコロナ禍において、病院や自宅に居たままで「真剣に楽しむ(シリアスファン)」非日常の時間を提供するため、以下の4つの活動を試行実施した。

○ウォールステッカーギフト

北海道に棲息する動物を描いた、貼って剥がせるウォールステッカーを、全国各地の協力病院へ500セット贈った。

「ステッカーで入院中の病院を飾り付け」



○Tシャツ&エコバックギフト

闘病中の子どもやきょうだい計5名に、太陽のマスコットキャラクターを描いてもらい、オリジナルのTシャツ&エコバックにしてプレゼント。

「子どものイラスト入りエコバック&Tシャツ」



○スノーギフト

キャンプ場に積もった雪を専用のスノーボックスに詰め、冷凍空輸にて、雪が積もらない地域の病院や施設に合計22箱を贈った。(鹿児島、岐阜ほか)

「病院内プレイルームでの雪だるま作り」



○自然体験 Virtual Reality (VR)映像の制作

キャンプ場で自然体験 VR 映像(夏・冬)を撮影・制作し、翌年度以降の病院での上映会の開催を企画する。プロジェクター映写(出力)が可能なので、病院のプレイルームなどでの上映、親子での体験が可能。驚きや没入感が病院生活での非日常体験つながる。



「制作した馬車操縦のVR映像」

④「元キャンパーのフォロー」

過去に参加したことのある、元キャンパー(家族含む)に対し、キャンプでのつながりが、その後の生活に良い影響を与えることを期待し、全ての元キャンパーに「クリスマスギフト(12月)」を贈ってきたが、コロナ禍の本年度は、「キャンプ用品ギフト(6月)」も試行した。希望者を募り、30名を超える当選者へキャンプ用品をプレゼントした。



「公園で活用されたキャンプ用品ギフト」

⑤「ボランティア募集・育成・活動調整」

これまで年2回開催してきた「ボランティア宿泊研修(1泊2日)」は廃止(当面中止)し、「ボランティア登録制度」についても制度を廃止(当面中止)するための準備を始めることとした。(新規登録の停止と既存登録者への方針説明等を実施)

代わりに、既存登録者とはWEB会議ツールを使って、「オンラインでの情報交換会」を定期開催し、今後も継続することとした。また、今後は「SNSのフォロワーとしての登録」を呼びかけ、SNSを通じて、活動の情報発信への賛同の表明行動(いいね等)や、不定期に依頼する遠隔でのボランティア活動(チャリティ商品のPRや購入等)への参画を依頼していくこととした。



「ボランティア情報交換会(オンライン)」

また、キャンプ場での具体的なボランティア活動としては、既存登録者や連携団体を中心に、以下の活動調整等を行なった。

- キャンプボランティア(デイキャンプサポート及び馬ボランティア)
- 屋外維持管理(滝川中央ライオンズクラブ、滝川青年会議所他)
- 広報PRボランティア(食事班レシピ紹介動画配信、キャンプ一般公開イベント他)



「屋外維持管理ボランティア(ペンキ塗り)」



「食事班によるレシピ紹介動画配信」

⑥「専用施設の建設・維持管理」

主要施設群(食堂&浴室棟、宿泊棟2棟、医療棟(ほけんしつ)、事務棟、ゲストハウス、おあずまや、倉庫棟)を管理するとともに、車いすで行けるツリーハウスや森、草地の維持管理を継続実施。施設利用者が安全で快適に過ごせるよう、適時必要な施設設備の設置や軽微な改修を行った。特に本年度は、食堂・浴室棟および宿泊棟2棟の屋根の塗り替えを2ヶ月間かけて実施し、セラピー馬がキャンプ中に滞在するための馬房施設の充実を図った。



「食堂・浴室棟の大屋根のペンキ塗り替え」



「馬場にコンテナ、日陰シェードを設置」

(2) 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及(広報PR事業)

キャンプへの参加希望者や支援者・支援団体の拡大を目的に、以下の広報PRを実施。

① マスメディアへの露出(記事や特集になるテーマを積極的に提案)

- ・11月 自然体験 VR 映像(北海道新聞(全道版)、NHK 北海道 他)
- ・1月 活動開始 15 年(北海道新聞(全道版)での3連載特集)
- ・2月 スノーギフトの記事(北海道新聞(全道版)、朝日、毎日、読売 他)

② インターネットを活用した PR(ホームページ、フェイスブック等)

- ・ホームページ(日英)、フェイスブックの運用以外に、ユーチューブ、インスタの運用開始(今後は SNS のフォロアーなどをカウントし、その数を増やしていく方針)

③ 広報ツールの充実

- ・元キャンパーが描くイラストグッズ(T シャツ・エコバック)を試作し、広報ツールとして活用

④ 企業・団体への支援依頼活動

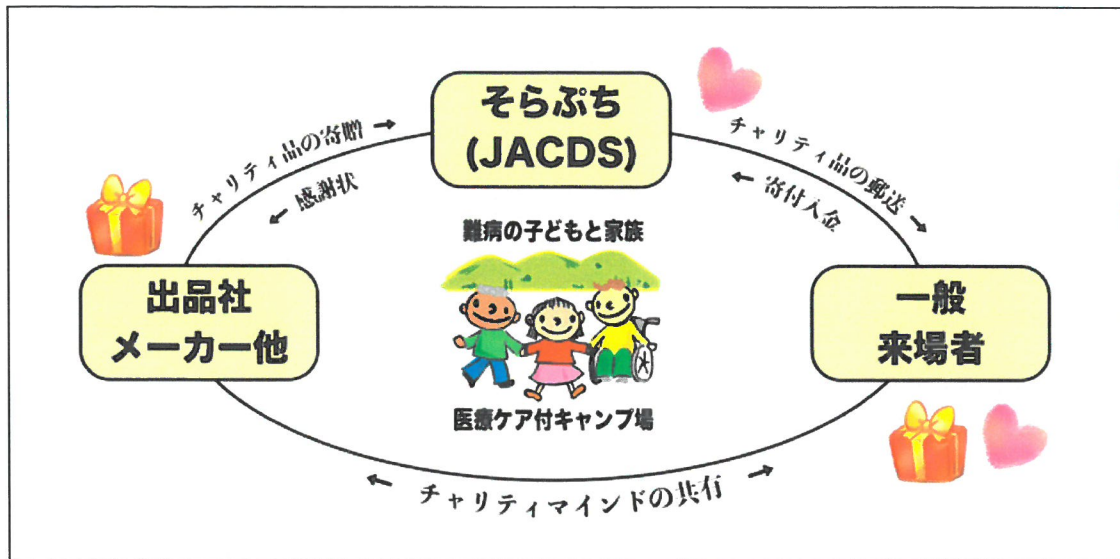
- (賛助会員、助成金、応援チャリティキャンペーン依頼)
- ・ウエルシアグループ(山崎製パン協働)にて、チャリティ菓子パン全国販売(約 30 万個)他



「チャリティ菓子パン」

⑤ 支援者イベントでのブース出展等

- ・FNS チャリティイベント、東京マラソン関連イベント等でチャリティパンを活用し、複数回 PR。
- ・3月 ドラッグストアショー(オンライン)で「チャリティオークション」を試行。(9日間)



「チャリティオークションで掲げたコンセプト図(約 50 万円寄付、約 1000 閲覧数あった)」

⑥ 店頭募金箱およびポスター等設置依頼

- ・日本チェーンドラッグストア協会の協力を得て、会員店舗に継続設置要請。
(QR コード募金も企画調整開始)

⑦ 写真展の開催

- ・8月 毎年定例開催している写真展を札幌会場にて実施。

⑧ 広報 PR イベントの開催

- ・10月 キャンプ場一般開放イベント「そらぶちフェスティバル」を2日間開催
- ・10月 感謝状贈呈式を札幌にて開催(10月サツドラフェス WEB で公開)

⑨ 個人への支援依頼活動

- ・応援チャリティキャンペーンやチャリティオークションへの参加を SNS 中心に呼びかけ。

(3) 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究(調査研究事業)

当財団が加盟している国際キャンプ団体からの要請で、元キャンパーへの「キャンプ参加後の影響について」のアンケート調整に協力。また、当財団の木村節子理事による「自然体験キャンプに参加した重症心身障害児の家族が得られた支援」研究調査に協力。これらの調査に関する結果は、翌年度以降、適時共有される予定。

また、WEB 開催された、以下の関連学会に WEB 上で参加し、情報収集を行った。

- ・日本小児科学会@WEB(神戸) ・日本小児がん学会@WEB(福島)

2. シリアスファン・チルドレンズネットワーク（以下SF）との連携

当財団は、故・ポール・ニューマンが創設者である国際的キャンプ団体SFに、正会員として加盟しており、本年度も定期的にWEB会議等でSFと情報交換を行った。

また本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、世界中のキャンプ場でキャンプ中止・内容変更等があり、その点での情報交換を綿密に行った。特に、キャンプ通常開催のための、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対処する、国際的なガイドライン作成に向けた協働作業を行っており、翌年度以降、完成・運用開始予定となっている。

3. 重要な契約に関する事項

記載すべき事項は特になし

4. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

| 開催年月日 | 議 事 事 項 | 会議の結果 |
|----------------|---|---------------------------|
| 2020年 6月1日 | 1. 2019年度 事業報告承認の件 2. 2019年度 決算報告(案)承認の件 3. 評議員・理事・監事の選任(案)承認の件 4. 2020年6月評議員会開催の件 | 書面決議にて 承認・可決 |
| 2021年 3月25日 | 1. 2021年度 事業計画 承認の件 2. 2021年度 収支予算 承認の件 3. 役員等賠償責任保険の加入 | (WEB開催) 全会一致で 承認・可決 |

(2) 評議員会

| 開催年月日 | 議 事 事 項 | 会議の結果 |
|----------------|---|-----------------|
| 2020年 6月13日 | 1. 2019年度 決算報告の承認 2. 任期満了に伴う評議員・理事・監事の選任 | 書面決議にて 承認・可決 |

III. 法人の課題

記載すべき事項は特になし

IV. 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

記載すべき事項は特になし

以上

公益財団法人そらぶちキッズキャンプ 2020年度 活動実績報告(概要)

『更に外出が難しくなった 闘病中の子どもたちや家族に“ちょっとした楽しみ”を贈りました』

●ウォールステッカーギフト

北海道に棲む動物を描いた、貼ってはがせるウォールステッカーをオリジナルで 500 セット製作。全国各地の協力小児科医(病院)へ郵送し、病室の子どもたちと楽しんでもらいました。



「病院で貼られたステッカー」

●おうちキャンプ用品ギフト

これまで全国各地からキャンプに参加した、1000名を超える子どもたちや家族へ、コロナ禍見舞い(お便り)を送付。その中で、ギフトの募集を行い、希望者にはキャンプ用品をプレゼント。おうち時間が長くなったタイミングで、安全にキャンプの雰囲気を感じてもらいました。



「キャンプ気分を楽しむ家族」

●スノーギフト

雪の積もらない地域にある小児病院や闘病中の自宅へ、キャンプ場に積もった雪を専用のスノーボックスに詰め、冷凍空輸で贈りました。初めて雪に触った子どもたちも多く、とても喜んでくれました。



「雪の積もらない地域の小児病院のプレイルームで雪だるま作り」

『同居する 1 家族のみを対象とし、感染対策を徹底したキャンプを開催しました(計 15 回)』

●日帰りキャンプ 14 回 ～北海道在住～

緊急事態宣言解除後の 6 月から 10 月までのあいだ、キャンプ場の近隣にある滝川市子ども発達支援センター、旭川子ども総合療育センターの利用者を中心に、1 家族限定の日帰りデイキャンプを週末 12 回開催し、12 家族 47 名の子どもたちや家族に、馬アクティビティや森のたんけん、芝生あそびなどを楽しんでもらいました。また、1 月下旬にも、1 日 1 家族限定のデイキャンプを週末 2 回、雪の中で開催し、北海道内在住の 2 家族 7 名を招待しました。



「乗馬後の馬とのふれあい」

●宿泊キャンプ 1 回 ～成田赤十字病院～

秋には、宿泊を伴うキャンプを 1 回開催しました。小児がんとたたかう子どもと家族(茨城県在住 1 家族 4 名)を、主治医同行のもと、2 泊 3 日で招待することができました。家族一緒に乗馬や森たんけん、アーチェリー、焚き火でおやつ作りなど、北海道の自然を満喫してもらいました。



「家族みんなで焚き火おやつ」